

## 名桜大学新入生における情報通信手段の調査

上門 要<sup>1)</sup>, 中里 収<sup>1)</sup>, アラスーン・ピーター<sup>1)</sup>

### An Investigation into the Means of Information Communication Used by First-Year Meio University Students

Kaname Uejo<sup>1)</sup>, Shu Nakazato<sup>1)</sup>, Peter Arathoon<sup>1)</sup>

#### 要 旨

近年、携帯電話・スマートフォンといった情報通信端末が社会に普及し、特に若者を中心にインターネット上のやりとりが主なコミュニケーション手段となりつつある。

このような状況の中で、平成25年度に大学進学した学生が、どのくらい情報通信機器を利用しているか、またどのような形態で情報収集や交流を行っているかを調べるために、名桜大学新入生を対象にアンケート調査を実施し、487名から回答を得た。調査の結果、ほとんどの学生がほぼ毎日SNSを利用し、携帯電話やスマートフォンの1日の利用時間は推定平均値で2時間29分、テレビ・DVD鑑賞時間は1時間33分、パソコン利用時間は30分ということが分かった。

**キーワード** : SNS, スマートフォン, 情報通信, 大学生, アンケート調査

#### Abstract

In recent years, the use of information communication devices such as mobile telephones and smartphones has increased greatly in our society. Among the younger generation, the Internet in particular is quickly becoming the primary means of communication.

In the spring of 2013 we undertook a questionnaire of 487 first-year university students to investigate firstly, the extent to which they are using various information communication devices, and secondly, in what form they are collecting and exchanging information.

The results showed that almost all students use SNS daily. They use mobile telephones or smartphones for an estimated daily average of 2 hours and 29 minutes, compared with 1 hour and 33 minutes watching television or DVDs, and 30 minutes using personal computers.

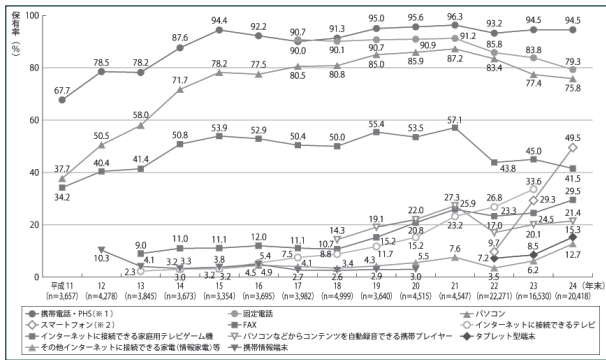
**Keywords**: SNS, smartphone, information communication, university students

#### I. はじめに

近年、携帯電話・スマートフォンといった情報通信端末が社会に普及し、インターネットへのアクセスが容易になり、生活スタイルに大きな影響を持ってきている。総務省の情報通信白書によると、平成24年末の情報通信機器の普及状況は、「携帯電話・PHS」の世帯普及率は

94.5%、「パソコン」世帯普及率は75.8%となっている。また、「携帯電話・PHS」の内数である「スマートフォン」は、49.5%（前年比20.2ポイント増）と報告されており、平成22年あたりから急速に普及が進んでいることがわかる（図1）。

<sup>1)</sup> 名桜大学国際学群 〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 Faculty of International Studies, Meio University, 1220-1, Biimata, Nago, Okinawa 905-8585, Japan

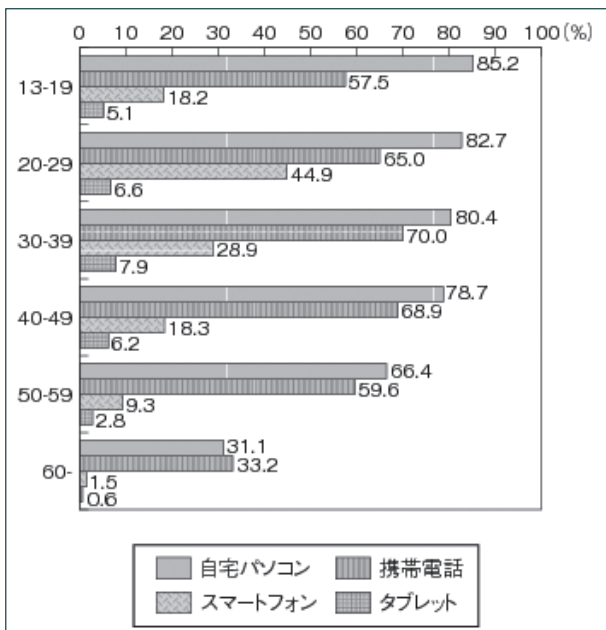


(出典) 総務省「平成24年通信利用動向調査」  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>

図1. 情報通信端末の世帯保有率の推移

また、平成23年末時点でのインターネットの世代別個人利用の状況報告によると、スマートフォンは、20代は4割を超えるものの、世代間の差が大きいことがわかる(図2)。また、タブレット端末は、20代~40代でも6~7%にとどまっているが、平成24年度以降ますます普及していくことが予想される。

幅広い世代層でどこでもインターネットに接続できる機器として、携帯電話は依然大きな役割を果たしている一方、若年層においては、急速なスマートフォン利用へのシフトが生じていることが見て取れる。



(出典) 総務省「平成23年通信利用動向調査」

図2. インターネットの世代別個人利用の状況 (平成23年末)

このような状況の中で、パソコン、携帯電話、スマートフォンといった情報通信端末に対する大学生の親和性はここ数年で大きく変化している。大学に進学した時点でインターネットの利用方法に慣れており、個人の生活の中でSNSやメールといったインターネットサービス

を使いこなす学生も多くなってきた。高等教育においてもSNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用した実験的な授業などが増えてきている(佐久本ら, 2011)。

著者らは、大学生の利用実態とその経年変化を調査することが必要と考え、平成25年度より全新生を対象にした調査を実施することとした。

## II. 目的と方法

### 1. 研究の目的

本研究の目的は、大学教育の充実のために学生の情報通信機器の利用実態を調査し分析することである。情報通信環境が変化している中で、毎年同様の調査を続け、年度ごとの学生の特徴を比較し、分析する。本研究はその最初の調査である。

### 2. 研究の方法

名桜大学生の1年生を対象に、情報通信手段等のWebアンケートを行った。

アンケートの実施期間は平成25年4月16日から4月19日の4日間であり、1年次対象の「コンピュータ・リテラシー」(17クラス)の演習時間中に名桜大学のSNS(名桜メンバーズ)上でWebアンケートを行った。

本アンケートは無記名であり、回答データから回答者個人は特定できないが、アンケートに記入した時刻から演習クラスはある程度特定できるようになっていた。また、回答者には、本アンケートが成績とは無関係で研究目的で使用されることが説明された。

アンケート内容は1)性別、2)県内出身か、3)一人暮らしか、4)新聞を購読しているか、5)パソコンを持っているか、6)自宅にインターネットがつながっているか、7)1日のうち携帯電話またはスマートフォンを利用する時間、8)PCを利用する時間、9)テレビまたはDVDを鑑賞する時間、10)マンガを読む時間、11)登録しているSNS、12)SNSを利用する理由、13)SNSを利用する頻度、14)SNSのオフ会の参加回数、15)被害にあったことがあるか、16)SNSに対するイメージについて、の16問であった。

## III. 結果

### 1. アンケート項目別結果

#### 1) あなたの性別を教えてください

『あなたの性別を教えてください』の問いに対して、回答者数480名中、「男」187名(39.0%)、「女」293名(61.0%)であった。

#### 2) あなたの出身について教えてください

『あなたの出身について教えてください』の問いに対して、回答者数485名中、「県外出身」が260名（53.6%）、「県内出身」が219名（45.2%）、「その他」が6名（1.2%）であった。

3) あなたは現在、誰と住んでいるか教えてください

『あなたは現在、誰と住んでいるか教えてください』の問いに対して、回答者数484名中、「一人暮らし」366名（75.6%）、「家族と一緒に」108名（22.3%）、「その他」10名（2.1%）であった。

4) 自宅では新聞をとっているか教えてください

『自宅では新聞をとっているか教えてください』の問いに対して、回答者数480名中、「とっている」91名（19.0%）、「とっていない」389名（81.0%）であった。

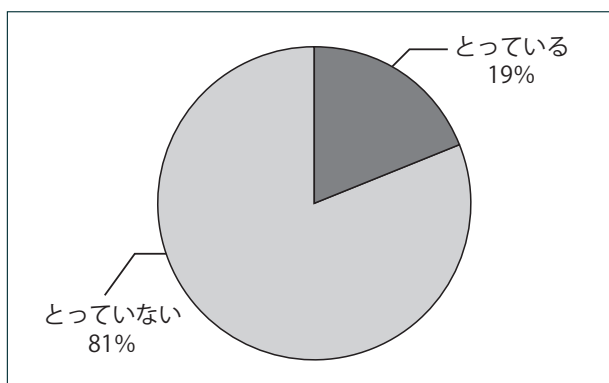


図3. 問4新聞購読

5) 自宅にパソコンはあるか教えてください

『自宅にパソコンはあるか教えてください』の問いに対して、回答者数483名中、「ある」306名（63.4%）、「ない」177名（36.6%）であった。

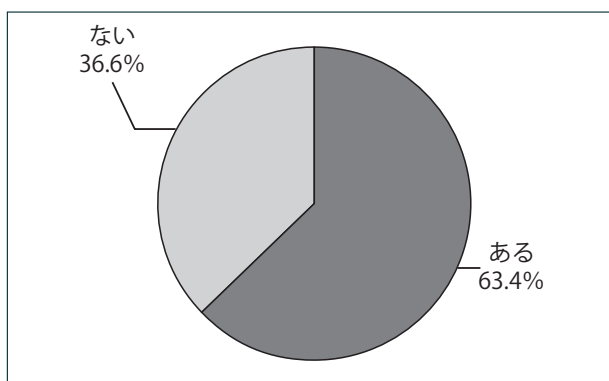


図4. 問5パソコンの所有率

6) 自宅にインターネットがつながっているか教えてください

『自宅にインターネットがつながっているか教えてください』の問いに対して、回答者数485名中、「つながっている」260名（53.6%）、「つながっていない」225名（46.4%）であった。

『あなたの出身について教えてください』の問いに対して、回答者数485名中、「つながっている」260名（53.6%）、「つながっていない」225名（46.4%）であった。

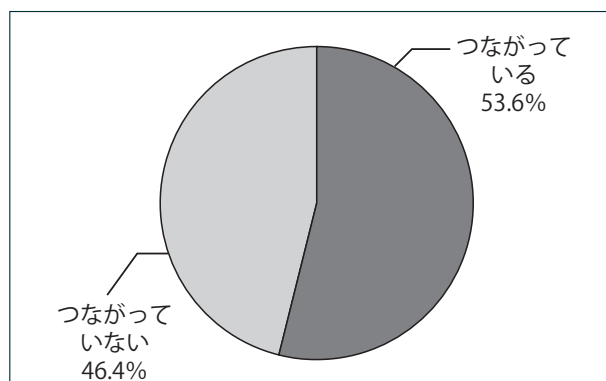


図5. 問6インターネット環境

7) あなたは1日に携帯又はスマートフォンをどのくらい利用しますか？

『あなたは1日に携帯又はスマートフォンをどのくらい利用しますか？』の問いに対して、回答者数482名中、「まったく利用しない」4名（0.8%）、「30分以内」29名（6.0%）、「30分～1時間」69名（14.3%）、「1時間～2時間」126名（26.1%）、「2時間～3時間」123名（25.5%）、「3時間～4時間」63名（13.1%）、「4時間以上」66名（13.7%）、「その他」2名（0.4%）であった。

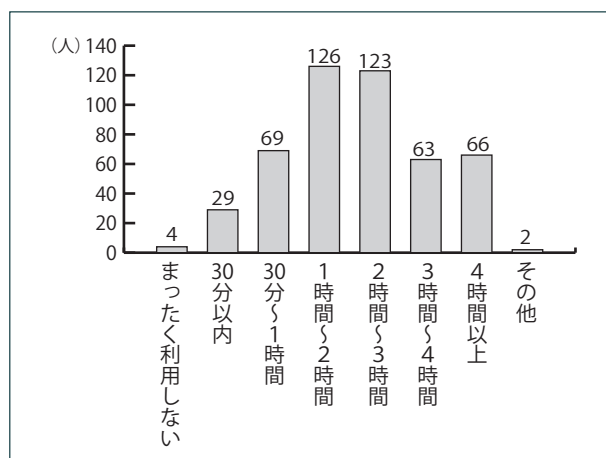


図6. 問7携帯・スマホの利用時間

8) あなたは1日にどのくらいパソコンを利用していますか？

『あなたは1日にどのくらいパソコンを利用していますか？』の問いに対して、回答者数484名中「まったく利用しない」259名（53.5%）、「30分以内」73名（15.1%）、「30分～1時間」69名（14.3%）、「1時間～2時間」36名（7.4%）、「2時間～3時間」25名（5.2%）、「3時間～4時間」7名（1.4%）、「4時間以上」11名（2.3%）、「そ

の他」4名(0.8%)であった。

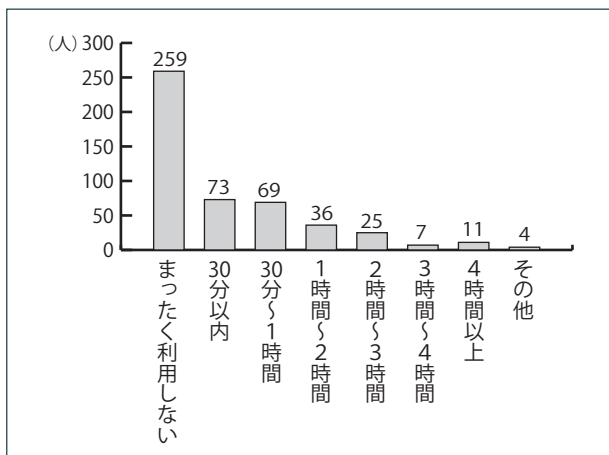


図7. 問8パソコンの利用時間

9) あなたは1日の中でテレビやDVDを鑑賞する時間はどのくらいですか？

『あなたは1日の中でテレビやDVDを鑑賞する時間はどのくらいですか？』の問いに対して、回答者数481名中、「まったく鑑賞しない」62名(12.9%)、「30分以内」46名(9.6%)、「30分～1時間」106名(22.0%)、「1時間～2時間」153名(31.8%)、「2時間～3時間」73名(15.2%)、「3時間～4時間」27名(5.6%)、4時間以上14名(2.9%)であった。

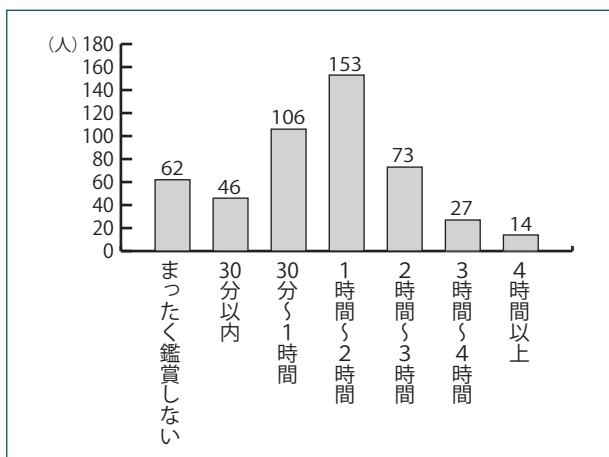


図8. 問9テレビやDVDの鑑賞時間

10) 1日にマンガを読む時間はどのくらいですか？

『1日にマンガを読む時間はどのくらいですか？』の問いに対して、回答者数481名中、「まったく読まない」337名(70.1%)、「30分以内」82名(17.0%)、「30分～1時間」34名(7.1%)、「1時間～2時間」20名(4.2%)、「2時間～3時間」5名(1.0%)、「3時間～4時間」1名(0.2%)、4時間以上1名(0.2%)、「その他」1名(0.2%)であった。

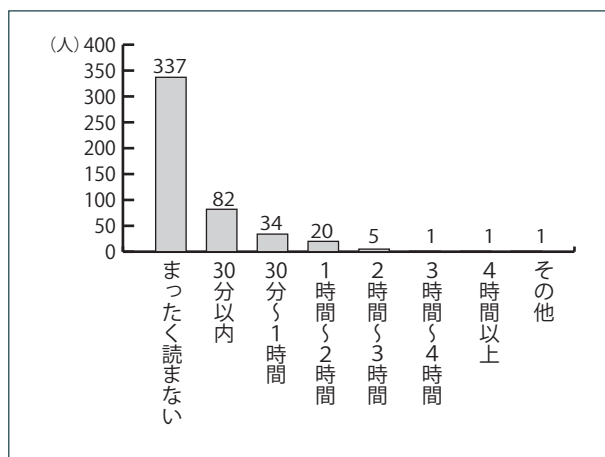


図9. 問10マンガを読む時間

11) あなたが知っている、又は登録している交流サイト(SNS)を教えてください

『あなたが知っている、又は登録している交流サイト(SNS)を教えてください』の「登録してよく利用するSNS」について、「LINE」430名(88.5%) (回答者数486名中)、「Facebook」208名(43.7%) (回答者数476名中)、「Twitter」167名(35.4%) (回答者数472名中)、「mixi」25名(5.3%) (回答者数471名中)、「GREE」16名(3.4%) (回答者数473名中)、「モバゲー」23名(4.9%) (回答者数472名中)、「Ameba」24名(5.1%) (回答者数470名中)であった。

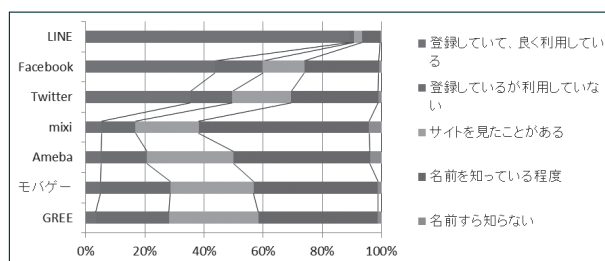


図10. 問11交流サイト(SNS)の認知度

12) 交流サイト(SNS)を利用する理由を教えてください(複数可)

『交流サイト(SNS)を利用する理由を教えてください』の問いに対して、「周りが利用しているから」266名、「さまざまな情報が集まるから」254名、「昔の友人や他人と連絡が取れるから」302名、「アプリやゲームを楽しむため」63名、「同じ趣味の友達がたくさんできるから」74名、「自分の意見や考えを発信できるから」59名、「有名人や気になる人のことを知りたいから」48名、「SNSには登録していない」26名、「その他」5名、「不明」1名であった。

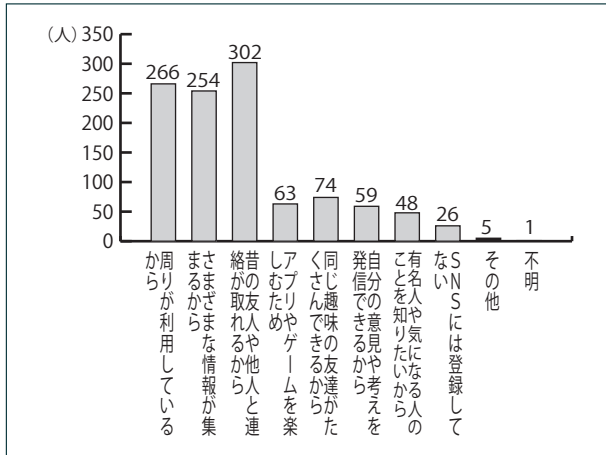


図11. 問12 SNSを利用する理由

13) 交流サイト (SNS) はどのくらいの頻度で利用していますか？

『交流サイト (SNS) はどのくらいの頻度で利用していますか？』の問いに対して、回答者数483名中、「1日に何度もチェックする」271名 (55.1%)、「1日に1度はチェックする」98名 (20.3%)、「週に4～6回はチェックする」8名 (1.7%)、「週に1～3回はチェックする」18名 (3.7%)、「月に数回」11名 (2.3%)、「登録しているメールがきたらチェックする」25名 (5.2%)、「登録しているがチェックしていない」20名 (4.1%)、「SNSには登録していない」30名 (6.2%)、「その他」2名 (0.4%)であった。

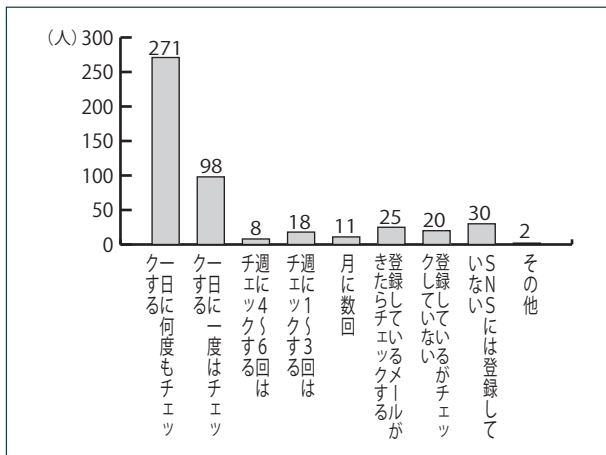


図12. 問13 SNSの利用頻度

14) コミュニティ (SNS) で知り合った人の集まり (オフ会) に参加したことはありますか？

『コミュニティ (SNS) で知り合った人の集まり (オフ会) に参加したことはありますか？』の問いに対して、回答者数485名中、「まったくない」440名 (90.7%)、「1～2回」26名 (5.4%)、「3～4回」8名 (1.6%)、「5～10回」4名 (0.8%)、「10回以上」7名 (1.4%)であった。

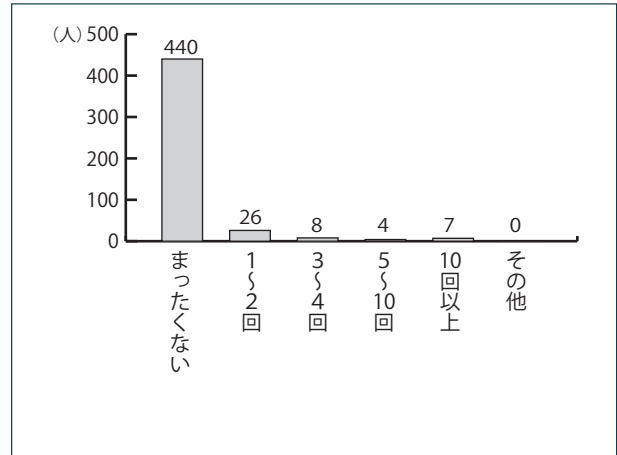


図13. 問14 SNSで知り合った人の集まり (オフ会) に参加した回数

15) 交流サイト (SNS) で嫌なこと、被害にあったことはありますか？

『交流サイト (SNS) で嫌なこと、被害にあったことはありますか？』の問いに対して、回答者数485名中、「まったくない」442名 (87.0%)、「1～2回」55名 (11.3%)、「3～4回」5名 (1.0%)、「5～10回」1名 (0.2%)、「10回以上」2名 (0.4%)であった。

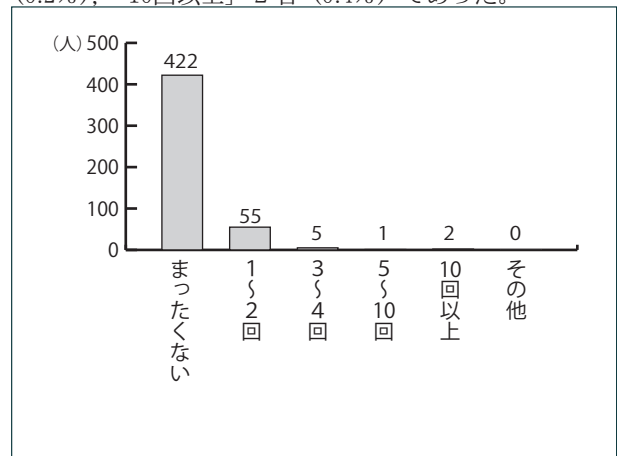


図14. 問15 SNSで嫌なこと、被害の頻度

16.1) SNSのイメージを教えてください (利用するのはわずらわしい)

『SNSのイメージを教えてください (利用するのはわずらわしい)』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」17名 (3.5%)、「そう思う」58名 (12.0%)、「どちらともいえない」164名 (33.9%)、「そう思わない」187名 (38.6%)、「まったくそう思わない」58名 (12.0%)であった。

16.2) SNSのイメージを教えてください（個人情報が漏れそう）

『SNSのイメージを教えてください（個人情報が漏れそう）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」56名（11.6%）、「そう思う」178名（36.8%）、「どちらともいえない」143名（29.5%）、「そう思わない」86名（17.8%）、「まったくそう思わない」21名（4.3%）であった。

16.3) SNSのイメージを教えてください（利用するのは難しい）

『SNSのイメージを教えてください（利用するのは難しい）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」44名（9.1%）、「そう思う」112名（23.1%）、「どちらともいえない」126名（26.0%）、「そう思わない」160名（33.1%）、「まったくそう思わない」42名（8.7%）であった。

16.4) SNSのイメージを教えてください（出会いの場である）

『SNSのイメージを教えてください（出会いの場である）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」33名（6.8%）、「そう思う」132名（27.3%）、「どちらともいえない」173名（35.7%）、「そう思わない」106名（21.9%）、「まったくそう思わない」40名（8.3%）であった。

16.5) SNSのイメージを教えてください（画像を見せ合う場である）

『SNSのイメージを教えてください（画像を見せ合う場である）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」15名（3.1%）、「そう思う」101名（20.9%）、「どちらともいえない」213名（44.0%）、「そう思わない」111名（22.9%）、「まったくそう思わない」44名（9.1%）であった。

16.6) SNSのイメージを教えてください（趣味の一部である）

『SNSのイメージを教えてください（趣味の一部である）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」41名（8.5%）、「そう思う」214名（44.2%）、「どちらともいえない」146名（30.2%）、「そう思わない」56名（11.6%）、「まったくそう思わない」27名（5.6%）であった。

16.7) SNSのイメージを教えてください（ゲームをする場である）

『SNSのイメージを教えてください（ゲームをする場

である）』の問いに対して、回答者数484名中、「とてもそう思う」6名（1.2%）、「そう思う」69名（14.3%）、「どちらともいえない」187名（38.6%）、「そう思わない」139名（28.7%）、「まったくそう思わない」83名（17.1%）であった。

16.8) SNSのイメージを教えてください（利用するのは楽しい）

『SNSのイメージを教えてください（利用するのは楽しい）』の問いに対して、回答者数483名中、「とてもそう思う」56名（11.6%）、「そう思う」190名（39.3%）、「どちらともいえない」189名（39.1%）、「そう思わない」31名（6.4%）、「まったくそう思わない」17名（3.5%）であった。

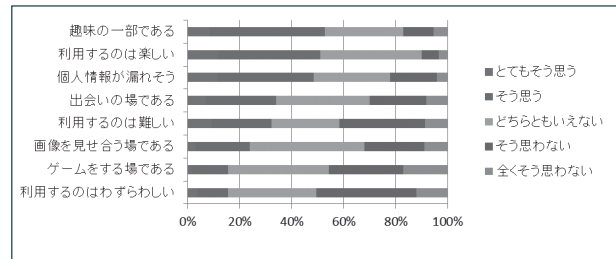


図15. SNSのイメージ (問16)

## 2. 所属別結果

情報機器の利用時間について、PC利用は「まったく使用しない」人が50%以上いた。一方、携帯又はスマートフォン利用は「2時間前後の利用」の人が50%以上となっている。学群、学科の人数が違うため、所属別でも同じ傾向にあるか、または所属別で特徴があるのか、それぞれの割合を比較した。

1) 所属別、1日の携帯又はスマートフォン利用時間の割合  
所属別、『1日に携帯又はスマートフォン利用時間』の割合では、ほぼ同じ傾向が見られた。3学科ともに、1時間～2時間と2時間～3時間で多く50%以上が1日に2時間前後携帯又はスマートフォンを利用している。

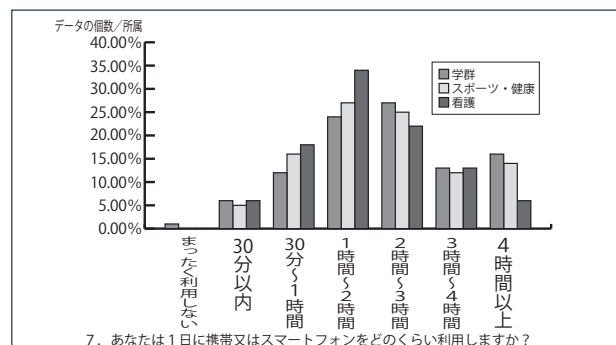


図16. 所属別の携帯・スマホ利用時間 (問7)

## 2) 所属別, 1日のパソコン利用時間の割合

所属別, 『1日のパソコン利用時間』の割合において, 学群では, 約55%の学生がまったく利用してなく, 1日のパソコンの利用時間は30分以内と30分~1時間で多く学群全体の約26%であった。スポーツ健康学科では約60%の学生がまったく利用してなく, 1日のパソコンの利用時間は30分以内と30分~1時間で多くスポーツ健康学科全体の約28%であった。看護学科では約46%の学生がまったく利用してなく, 1日のパソコンの利用時間は30分以内と30分~1時間で多く看護学科全体の約43%であった。看護学科では, 2時間~4時間の利用者は0%であった。

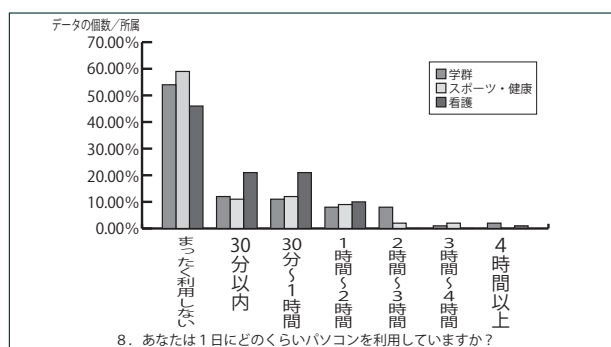


図17. 所属別のパソコン利用 (問8)

## 3) 所属別, あなたは1日の中でテレビやDVDを鑑賞する時間はどのくらいですか?

所属別, 『あなたは1日の中でテレビやDVDを鑑賞する時間はどのくらいですか?』の割合において, 学群では, 30分~2時間で多く学群全体の約54%であった。スポーツ健康学科では, 30分~2時間で多くスポーツ健康学科全体の約55%であった。看護学科では30分~2時間で多く学群全体の約53%であった。所属別において, 学群とスポーツ健康学科は「まったく鑑賞しない」が約15%, 看護学科は約7%であった。

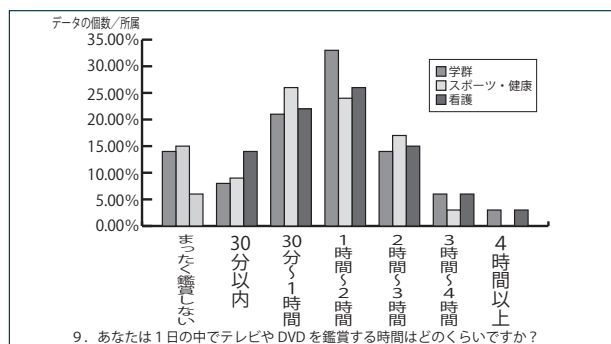


図18. 所属別のテレビ・DVD鑑賞時間 (問9)

## 3) 所属別, 1日にマンガを読む時間はどのくらいですか?

所属別, 『1日にマンガを読む時間はどのくらいですか?』の割合において, 約67%の学生が「まったく読まず」, 読む時間では「30分以内」が多く約17%であった。スポーツ健康学科では, 約79%の学生が「まったく読まず」, 読む時間では30分以内が多く約15%であった。看護学科では約70%の学生が「まったく読まず」, 読む時間では30分以内が多く約19%であった。

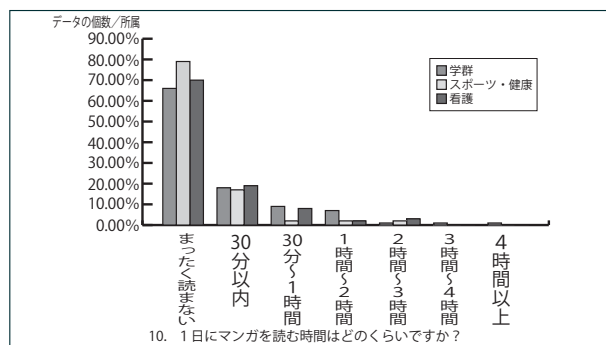


図19. 所属別のマンガを読む時間 (問10)

## IV. 考察

問7の『7. あなたは1日に携帯又はスマートフォンの利用時間はどのくらい利用しますか?』の結果に対して「推定平均値」を求めたところ, 2時間29分であった。

問8の「あなたは1日にどのくらいパソコンを利用していますか?」の結果に対して「推定平均値」を求めたところ, 30分であった。

問9の『あなたは1日の中でテレビやDVDを鑑賞する時間はどのくらいですか?』の結果に対して推定平均値は1時間33分であった。

総務省情報通信政策研究所(2013)による調査では, 大学生の携帯又はスマートフォンの利用時間は約3時間(187.2分)であり, それと比べると本学は30分短いことがわかった。また, 携帯又はスマートフォンの利用時間が, パソコンの利用時間よりも長いことがわかるが, それぞれの情報通信機器の利用目的が違うことが考えられる。今回の調査では, それぞれの情報通信機器の利用目的が判らないためアンケート項目の改善が必要である。

## V. おわりに

今回, 全新生を対象に情報通信手段についてのアンケートを実施した。

全国の傾向でも表れているように, 従来型携帯電話やスマートフォンの利用は本学の新入生にも広く普及して

おり、その利用時間はテレビやDVDの鑑賞時間、パソコンの利用時間よりも長かった。

これらの調査結果は入学して間もない4月の段階でのデータであり、学生生活を続けていく中で変化していくことも考えられる。

情報通信環境が激しく変化している中で、大学に進学してくる学生も年々変化している。筆者らは、教育を充実させるうえで、新入生の実態を把握することは必要なことと考えており、今後も継続して調査を続けていく予定である。

#### 【引用・参考文献】

- [1] 総務省：“平成25年版情報通信白書”，(2013).
- [2] 総務省：“平成24年版情報通信白書”，(2012).
- [3] 総務省情報通信政策研究所：“青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査”，(2013).
- [4] 佐久本功達，天願健，アラスーン・ピーター，中里収，アリ・ファテヘルアリム，清水則之：“高等教育におけるSNS活用方法についての検討”，名桜大学紀要16号，pp.29-46，(2011).